



特集

# 読書で将来を担う 子どもたちを育む

近年、テレビやビデオ、インターネットなど様々なメディアが普及する一方、子どもたちの読書離れが懸念されています。  
今月号では、将来を担う子どもたちが読書習慣を身に付け、想像力豊かに育つよう、市が取り組んでいる事業の一部を紹介します。



# 子どもの読書離れを抑える

## 読書の効果

子どもにとって読書は、言葉や学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。そして、人生をより深く生きる力を身に付けるために欠くことのできないものです。また、熟慮する力を養い、論理的思考を高めるとも言われています。

平成24年2月に独立行政法人国立青少年教育振興機構が行った調査によると、子どもの頃に本に触れる機会が多い成人は、「努力すれば夢はかなうと思う」「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」「自分のことが好きである」など、前向きな意識が高くなっている結果が報告されています。

子どもを取り巻く環境の変化  
近年、テレビやビデオ、インターネットなど様々な情報メディアが発達・普及し、子

どもの生活環境が変化しています。そのため、本との出会いが少なく、幼児期からの読書習慣が形成されないなどにより、子どもの本や絵本などの利用が低下し、「読書離れ」の傾向があると指摘されています。

## 白河市子ども読書活動推進計画

市では、将来を担う子どもたちが読書習慣を身に付け、想像力豊かに育つよう、平成25年に「白河市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

この計画では、家庭、保育園、幼稚園、学校、図書館等が連携し一体となって、本と出会い、子どもたちが自主的に読書できるよう配慮しながら、より良い環境を整えることで、読書の楽しさを伝え、生きる力を育てるための方策を示しています。

その中の一環である、ブックスタート事業や図書館での読み聞かせ、学校司書の配置を紹介します。

# 絵本で親子が触れ合うきっかけを

## ブックスタート

ブックスタートとは、すべての赤ちゃんに保護者を対象に、「絵本」と「赤ちゃん絵本を楽しむ体験」をプレゼントすることで、絵本を介して心触れ合う時間を持つきっかけを届ける活動です。

市では平成21年度から、保健センター、図書館、ボランティアの方が連携し、10か月健診日に合わせ実施しています。

ボランティアの方が絵本の読み聞かせを行い、絵本や市立図書館の情報が入ったブックスタート・バックを手渡しています。

絵本を通して楽しいひとときを分かち合う (share books)

赤ちゃんが絵本をじっと見たり、読んでいる人の顔を見つめたり、笑顔を見せたりする様子を、保護者の方に見て感じてもらいます。

## 「絵本を読む (read books)」

のではなく、大好きな人と絵本を開く楽しいひとときを「分かち合う (share books)」体験をその場でしてもらい、家庭でもそのような時間を持つきっかけを提供しています。また、絵本をプレゼントすることで、家庭ですぐに絵本を楽しむことができます。市では、4月からロングセラーで人気の「おふろでちゃぶちやぶ」と「ぶうさんのプー」の2冊を配っています。

地域で子育てを応援しているメッセージを届ける

ブックスタートでは、一組の親子と向き合い、話をする事ができます。

絵本に関する事だけでなく、図書館でのイベントや子育てに関する情報などを紹介することで、保護者が地域とつながれるきっかけを提供し、「地域みんなで子育てを応援している」というメッセージも届けています。

## ブックスタートを受けた保護者からの声

▷今回、初めての絵本でした。まだ絵本は早いと思っていましたが、絵本の読み聞かせを隣で見て、まねしたり家でやりたいと思います。  
▷自分ではどんな絵本を選べばよいかわからなかったのですが、ブックスタートで絵本をプレゼントしてもらえてよかったです。絵本の読み方なども、とても勉強になりました。

## ボランティアの方からの声

▷ブックスタートで出会った親子と再会し声を掛けてもらうなど、次につながっていくことがうれしいです。赤ちゃんだけでなくお母さんにも寄り添いながら活動しています。  
▷絵本の読み聞かせで、親子が笑顔になるとやりがいを感じます。赤ちゃんやお母さんに声掛けをするなど、楽しみながら地域で子育てをサポートしています。

## Interview ブックスタート研修会 (4月8日)

### 愛情に満ちたことばで赤ちゃんに幸せを

ブックスタートは、1992年にイギリスで始まり、日本では2001年から活動が始まりました。私たちNPOブックスタートは、実施している自治体のサポートや情報提供などを行っています。ブックスタートが充実した活動として全国に広まってほしいと思っています。

赤ちゃんが愛情に満ちた「ことば」を掛けてもらうことで、すくすくと幸せに育ってもらうことがブックスタートの願いです。



NPOブックスタート 安井真知子さん

## Interview

### 子どもの読書を見守り育んでいく

子どもの読書が、絵本から物語を文章で表現する本に広がっていくためには、親や学校の先生、図書館の職員など、大人の手助けが必要です。小学校に学校司書を配置することは、そういった本や本の相談などだけでなく、学校図書館や市立図書館の使い方を子どもたちや先生方に教えることができます。本を読む楽しさや発見・気づきなど、きっかけがあれば自ら本を読むようになります。読書を押すだけではなく、見守り育んでいくことが大切です。



市立図書館りぶらん 館長 田中伸哉



学校図書館は子どもたちの「心の居場所」です。

1. 本を借りる児童たち
2. 手際よく本の貸し出しを行う荒井くん
3. 昨年11月から準備し、2月4日にリニューアルオープンした図書室（4月15日／白五小）



# おはなしの小屋での楽しい時間

親子一緒に楽しめる時間

「ちびっこおはなしのくに」は、毎月第1・3木曜日、0歳から3歳までを対象に行っています。

初めての絵本となる赤ちゃんも楽しめるよう、言葉の繰り返しやリズムが良い、耳に残るような絵本を選んでいきます。また、月ごとにテーマがあり、そのテーマや季節にあった絵本の読み語りをしているほか、読んだ絵本につながる



1. 木の温もりが感じられるおはなしの小屋  
2. 親子で触れ合える手遊び 3. ボランティアの方（一番右）の読み聞かせ 4. お母さんの膝の上で絵本を見つめる子どもたち（4月7日／ちびっこおはなしのくに）

る手・体遊びをしています。子どもたちが飽きずに楽しめ、さらに、親子で触れ合いながら家庭でも一緒に遊べるような内容になっています。

参加型のおはなし会

「おはなし会」は、毎月第2・4土曜日、3歳から小学校低学年までを対象に行っています。

絵本を通して子どもたちとやり取りができるよう、参加型の本を選んでいきます。また、大型絵本や紙芝居など、本のバリエーションも豊富にし、興味を引くような工夫をしています。

「ちびっこおはなしのくに」と同じように、季節・時期に合わせたテーマがあるほか、絵本を利用しながら職員が子どもたちに問いかけを行ったり、言葉遊びや体を動かしたりするなど、コミュニケーションが図れる内容になっています。



▲春にちなんだ手遊び「キャバツのなかから」



▲大型絵本の読み聞かせに聞き入る子どもたち



▲職員の問いかけに絵本を指さして答える様子（4月9日／おはなし会）

# 学校図書館をより身近に

学校司書の配置

学校での読書活動は、コミュニケーション能力や豊富な知識、正しい日本語の習得だけでなく、児童の人格形成のためにも重要な役割を担っています。

しかし、多くの学校図書館には学校司書が配置されていないため、児童が学習のため

必要としている本の整備収集などが十分ではない状況です。

そのため市では、多くの児童が学校図書館を利用しやすくなるよう、平成26年度から市内各小学校に、学校司書の配置を進めています。現在、8校に学校司書を配置し、蔵書目録のデータベース化、公共図書館の利用につながるような図書館内蔵書の配置換えなど、リニューアルを行いました。

学校図書館を利用しやすく

公共図書館のように、本1冊ごとに内容に合わせて分類し、背ラベル・バーコードを付け、専用ソフトで管理できるように目録をデータベース化する事で、読みたい本が探しやすい、予約もできるようになります。また、本の有無が明確になり、学校での重複購入が減るだけでなく、蔵書数・貸出数などの統計を正確につかむことができます。

児童たちが探しやすい手に取りやすくなるよう、本に付けた背ラベルを基に、本だけでなく棚や機の配置替えも行っています。

さらに、学校図書館内に、

おすすめの本の展示、本の見出し板や室内図を掲示し、行くだけで本と触れ合える図書館づくりもしています。

学校司書の育成

学校図書館の運営・活用など重要な役割を担う学校司書を育成するために、学校司書の育成にも力を入れています。市立図書館の窓口で接客の実践や、利用者が必要とする文献・情報を提供するレファレンス業務をはじめ、本の修理や検索システムの研修を行っています。

配置後は、学校図書館の運営だけでなく、児童たちの調べ学習や読みたい本への対応さらに、教師が授業で利用する資料の情報提供にも努めています。また、週に1回、学校司書同士の情報交換会を行い、学校図書館の機能充実に取り組んでいます。

## Interview 白五小

### 学校司書と図書委員に聞きました

《学校司書》



鈴木千彩子さん

白五小の児童たちは、本に関していろいろと聞いてくれるのでうれしいです。季節をテーマにした本の展示に力を入れています。児童たちに、もっと本に興味を持ってもらえるよう、積極的に話し掛けてサポートしていきたいです。

《図書委員（副委員長）》



荒井貴裕くん（白五小6年）

バーコードで貸し出しができるようになったので、作業が楽になりました。今まで本を探すのに苦労していましたが、学校司書の先生に聞いて、すぐに見つかるようになりました。

## Interview

### 参加者に感想を聞きました

《ちびっこおはなしのくに》



遠藤香里さん・千奈乃ちゃん（東下野出島）

小さい子どもたちが集まれる場所になっています。参加することで、自分では知らない手遊びを教わり、家でやったりしています。これからも参加していきたいです。

《おはなし会》



菅野哲哉さん親子（西郷村）

図書館に遊びに来たら偶然やっていたので、初めて参加しました。絵本や紙芝居の読み聞かせは、私自身、懐かしさを感じました。子どもたちも楽しんでいたのでよかったです。